

## 『重大事故』が連続発生！！

墜落・転落、飛来・落下、埋設物破損

### 〔事故事例①〕 作業足場から墜落！

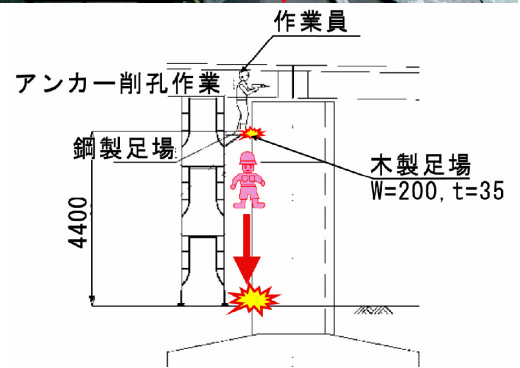
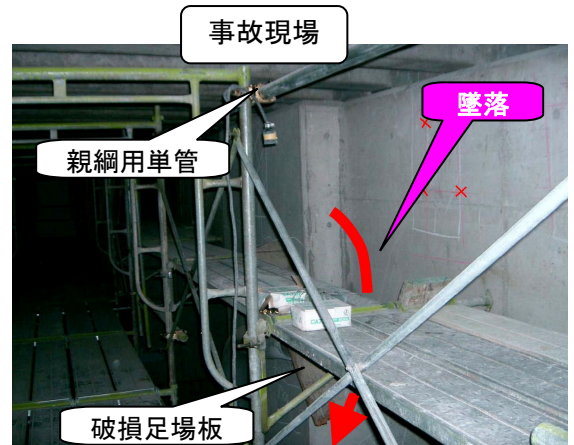
#### ◇事故の概要 [高架橋耐震補強工事]

橋脚の横桁補強の為、ホールインアンカーの打込み作業を張出し足場上で行っていた。

次の場所に移動しようとしたところ、木製の張出し足場板(幅 200mm、厚 35mm)が折れ、4.4m下に墜落し負傷した。

#### △事故の原因

- ・ 足場板に急激な荷重がかかりほぼ中央部で破損した。
- ・ 足場板が老朽化していた可能性がある。
- ・ 張出し足場には親綱用単管が設置されていたが、作業員は安全帯を着用していたものの使用を怠っていた。



#### ☆事故防止対策(案)

- 木製足場板は老朽化していても気がつきにくいので極力使用しないこと。やむをえず使用するときには損傷がないか十分にチェックすること。
- 高所作業では安全帯の使用を徹底すること。
- 墜落の危険がある箇所は安全ネットを設ける。

### 〔事故事例②〕 のり面から転落！

#### ◇事故の概要 [砂防堰堤工事]

砂防堰堤築造工事において、索道でバックホウを宙吊り移動させる作業の準備を行っていた。

斜面にいた作業員が、滑車から外れた横引き用ワイヤーを元に戻そうとした時、誤って滑車を斜面上に落とした。

焦った作業員は、この滑車を拾おうとした際に足を滑らせ、9m下に転落し負傷した。

#### △事故の原因

- ・ 作業場は急斜面であり、高さも9mを超えていたにもかかわらず、安全ロープ等の転落防止措置をしないで作業を行った。
- ・ 滑車を落としたという突発な事態に焦り、つい安全帯の使用等の安全対策を怠ってしまい事故に至った。
- ・ 降雨後の滑りやすい斜面作業で、悪い条件も重なった。



滑車を拾おうとして転落

#### ☆事故防止対策(案)

- ちょっとした作業でも侮りは禁物。高所では必ず安全帯の使用を徹底する。
- どの場所でも安全帯を使用しやすいように親綱・ロープの設置箇所を増やす。
- 単独作業の禁止を徹底し、お互いに声掛けをして注意喚起する。

### 〔事故事例③〕 掘削中、バケットから石がこぼれ落ちた！

#### ◇事故の概要 [函渠築造工事]

函渠築造工事において、覆工板上よりテレスコピック型クラムシェル (0.7m<sup>3</sup>) にて土砂の積込み作業を行っていた。テレスコピックを上方に引き上げる際に、バケットから土砂がこぼれ落ち、切梁等に跳ね、掘削底面で集土作業を行っていた小型バックホウ運転手の手に当たり負傷した。

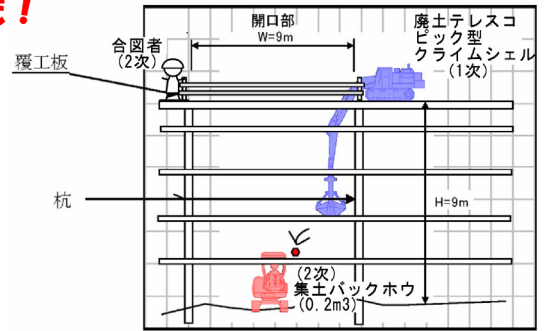
この時、負傷した運転手はクラムシェルの旋回方向とは逆の位置に退避していたが、石が跳ねて負傷した。

#### △事故の原因

- ・覆工板上に合図者を配置していたが、事故時、持ち場を離れていた。
- ・飛来落下防止のための防護ネットが設置されてなかった。

#### ☆事故防止対策 (案)

- 合図者不在の時は作業を行わない。
- 退避場所へ防護ネットを設置する。
- 土砂を吊り上げる時は下方の人払いを先に行う。
- クラムシェルの吊り下ろしから吊り上げまでは、下方に回転灯・警報器を設置して注意を促す。



### 〔事故事例④〕 鋼矢板で通信ケーブルを切断！

#### ◇事故の概要 [舗装工事]

舗装工事において国道の横断管渠の施工にあたり、埋設物管理者と事前立会を行い施工には影響がないと口頭で聞いていた。

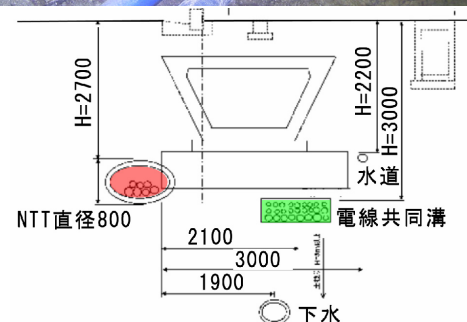
土留締切りを行うために鋼矢板を打込んだところ、地下 2.7 mの通信ケーブルを切断し、電話が約 10 時間不通となった。

#### △事故の原因

- ・立会時、土留工の有無、掘削深さ等、作業の内容が十分に伝わっておらず、双方の確認ができていなかった。

#### ☆事故防止対策 (案)

- 埋設物管理者との事前立会では、本体工事だけでなく、土留等仮設工・付帯工等の規模・範囲も含めた内容で打合せする。
- 打合せ内容は直ぐに書面に記録し、双方が十分に確認 (捺印) する。
- 掘削や土留等の作業を行うときは、『路面の下には必ず何かあり!』という認識を持つ。



## 平成20年春の全国交通安全運動

〔平成20年4月6日～4月15日〕

春の全国交通安全運動が始まります。

今年は、『子どもと高齢者の交通事故防止』を運動の基本に、交通ルール理解と交通マナーの習慣付けが重要課題となるとともに、本格的な高齢社会への移行に伴う高齢者の交通事故情勢に適切に対処するものです。

